

平成29年度
入学案内

SEITOKU

教職大学院案内
2017



SEITOKU

聖徳大学大学院 教職大学院

教職研究科 教職実践専攻 [幼児教育コース・児童教育コース]

幼稚園教員と

小学校教員を対象に

現代の教育現場で求められる

専門性を磨く。

教育課程

- 研究科・専攻 : 教職研究科 教職実践専攻(専門職学位課程)
- コー ス : 幼児教育コース/児童教育コース
- 入 学 定 員 : 15名
- 修 業 年 限 : 2年*¹または1年
<学校組織マネジメント専修(1年制)とカリキュラムマネジメント専修(1年制)は1年で修了>
- 修 得 単 位 数 : 46単位(実習10単位免除者は36単位、実習8単位免除者は38単位、実習6単位免除者は40単位)*²
- 学 位 名 称 : 教職修士(専門職)
- 取 得 免 許 状 : 幼児教育コース:幼稚園教諭専修免許状*³/児童教育コース:小学校教諭専修免許状*³

*¹:長期履修学生制度により、出願時に3年または4年の修業年限を選択することもできます。

*²:実習単位の免除は、所定の提出書類により入学者選抜試験に併せて合格することが必要です。

*³:専修免許状取得には、各一種免許状を有し、教育職員免許法に定める所定の条件を満たす必要があります。

本学園は創立以来80余年にわたり、「保育の聖徳®」として、幼児期から児童期の子どもの研究と教育に真摯に取り組んできました。

平成21年4月、この伝統と実績にもとづいて、さらに実践的な専門性の高い専門家教員 (professional teacher) を育成することを目的とした教職大学院を開学しました。

聖徳大学教職大学院は、「幼児教育コース」と「児童教育コース」を設けるとともに、現職教員を対象に組織マネジメントをより専門的に修学する1年制の専修プログラムを平成26年度より開始しています。

平成29年度より「学校組織マネジメント専修(1年制・昼間)」に名称を変更します。

さらに、カリキュラムマネジメント能力のある実践的で専門性の高い専門家教員を育成する「カリキュラムマネジメント専修(1年制・昼間)」を平成29年度より新しく設置します。

本学教職大学院は、院生の研究課題を大切に、その解決または開発にむけた実践的で理論的な研究が推進できる教育体制を用意しています。

そのために、キャリアに応じた教育プログラムを用意し、優れた実務経験を有する実務家教員と実践分析と研究を担当する研究者教員が共同して、事例研究と理論分析などを取り入れたカリキュラムのもとで、院生の課題研究の教育にあたります。

本学教職大学院は、連携協力校と協働し、院生の課題研究が学校の研究開発や課題解決につながる、これまでの大学院教育とは一線を画す、新たな教育を展開し、これからの教育現場で本当に求められる専門家教員育成の場を提供しています。

Contents

3つのポリシー P3

キャリアに応じた教育プログラム P5

カリキュラム4つの特色 P6

幼児教育コース P7

児童教育コース P9

教員採用試験への推薦のお知らせ P11

専任教員と主な担当科目 P12

本学教職研究科の教育方針を理解していただくために、 3つのポリシーを定めています。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

学部段階で培われた教職教育の基礎の上に、総合的な人間力、より高度な教育的実践力および研究能力を育成するとともに、教育者としての優れた人格性を陶冶することを目的としており、以下の学識・能力・人格を有するに至った者に学位を授与します。

1. 子どもの教育に当たる土台としての総合的な人間力を備えている。
2. 教育に関する確かな知識、高い技能、豊かな表現力を身につけている。
3. 専攻分野の高度な専門的知識・技能を修得している。
4. 実践的研究者としての態度と能力を身につけている。
5. 指導者教員としての要件を満たすことによって、指導者教員となる基礎ができている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

研究科の教育目的を達成するために、以下の点を重視した教育課程の編成・実施を行います。

1. 子どもに対する愛情と理解を基礎に、総合的な人間力を高める。
2. 教育の専門家として、確かな実践的力量を身につける。
3. 〈重点領域〉の学修によって、高度な専門性を修得させる。
4. 総合実習を通して課題解決能力を高め、実践的研究の力量を磨く。
5. 指導者教員としての学識・識見と人格性を備えさせる。

アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

研究科の教育目的を達成するため、以下のような条件を有する者を入学させることとしています。

1. 子どもに対する愛情が豊かで、その基礎理解を有し、入学後の修学に必要な基礎的な知識や実技能力を備えている。
2. 物事を多面的かつ総合的に、また客観的かつ論理的に考察することができる。
3. 他人の意見によく耳を傾けることができ、また自分の考えを分かりやすく伝えることができる。
4. 積極的に他者とかわり、協働してことに当たる協調性に優れている。
5. 人間・教育・文化・自然などに関する諸問題に深い関心を持ち、積極的な社会貢献への意欲を持っている。

入学者の受け入れに当たっては、上記1～5の条件をすべて満たした人で、幼稚園（認定こども園等を含む）・小学校の現職教員および教員免許状を取得している人（取得見込みの人を含む）を対象とします。

なお、幼稚園・小学校の教員免許状を取得していないが、中学校・高等学校の教員免許状を取得している人は、修業年限を延長することにより入学（研究）できる道も用意されています。

Topics

聖徳大学と千葉県教育委員会が 連携協力に関する協定を締結

01



平成25年3月に聖徳大学と千葉県教育委員会は、連携協力に関する協定を締結しています。本学は平成21年度に、教員養成に特化した専門職大学院である教職大学院を設置。千葉県教育委員会と協定を締結することで、教員養成と現場教職員の研修、教育に関する共同研究などについて連携を図り、千葉県の教育力向上に貢献することを目的としています。現在、教員の派遣や受け入れで相互協力するほか、連絡協議会を開催しております。

松戸市教育委員会と 協働解決研究に関する覚書を締結

02



平成27年3月、聖徳大学大学院教職研究科(教職大学院)と松戸市教育委員会は協働解決研究に関する覚書を締結しました。聖徳大学と松戸市教育委員会との連携協力に関する協定に基づき、本学教職研究科が松戸市教育委員会と協働し、松戸市立小中学校における課題を解決する研究を推進し、本学教職研究科の教育・研究の一層の充実と松戸市立小中学校教育職員の資質と向上を図るとともに、児童生徒の学力向上に寄与することを目的としています。

聖徳大学と柏市教育委員会が 連携協力に関する協定を締結

03



平成28年3月に聖徳大学と柏市教育委員会は、連携協力に関する協定を締結しました。その一環として、教職研究科としては、平成28年度より柏市教育委員会と連携協働した、①柏市立の4つの中学校区の小中学校で取り組まれている学びづくりフロンティアプロジェクト事業における授業実践研究の推進、②教職員の資質・能力の向上を目指した教員研修会及び教員免許更新講習への支援、③柏市立小中学校62校を対象とした協働研究の推進のための支援等に取り組みます。

News

2015年10月より
秋学期入学を開始!!

聖徳大学教職大学院では、大学院におけるグローバル化に伴う留学生への対応や、現職教員等の社会人をはじめとする多様な学生の受け入れを行うため、秋学期(10月)からの入学を開始しました。

キャリアに応じた 教育プログラムを用意



▶ 教職未経験者向け

幼稚園・小学校の教員免許状を持つ、又は年度内に取得見込みの教職未経験者を対象に、総合的な人間力と、教育の専門家としての実践的力量を持った教員を育成します。

▶ 現職教員向け

現職教員が対象。経験を積んだ教員としてさらなる専門性と豊かな人間性を身につけ、保護者や地域社会と連携した、活気ある教育活動を展開する力量を持った教育指導者を育成します。

10年経験者研修修了者で管理職を志向する者、または、指導的役割を担うリーダーを目指す者

保護者や地域社会との対外関係構築力や、情報収集・発信能力、客観的・論理的な視点を持ち、高い教育環境を築くためのリーダー的役割を担う教員を目指します。

10年経験者研修未修了の者

教職活動の様々な場面において、幼児・児童一人ひとりに適切な対応ができ、保護者、同僚の教員や学校・施設全体と協働して問題解決を図れる実践的力量を持った教員を目指します。

学校組織マネジメント専修

(1年制・昼間)

※平成29年度より組織管理マネジメント専修は、
学校組織マネジメント専修に名称変更

園及び学校のマネジメントの課題に基づき、幼児・児童生徒の学力の向上に資する学校経営・運営のリーダーとして、園・学校の質的転換を促す学校経営を推進する人材を育成するために、学級経営・学校経営に深い見識を有し、教育評価、授業設計等にも精通した、学校組織マネジメント能力のある実践的で専門性の高い専門家教員を育成します。

カリキュラムマネジメント専修

(1年制・昼間)

※平成29年度より新設

各園・学校の教育課程の編成・実施・評価・改善のPDCAサイクルを運用するリーダーを育成するとともに、園・学校の質的転換を促す教員研修を推進する人材を育成するために、教科に関する指導法研究及び教材開発に深い見識を有し、教育評価、授業設計等にも精通した、カリキュラムマネジメント能力のある実践的で専門性の高い専門家教員を育成します。

学びを支える様々な仕組み

現職教員が勤務と学習を両立させ、段階的に学習に取り組み、無理なく履修・研究を進められるように環境を整えています。

長期履修学生制度

学生が職業を有している等の事情により、修業年限を超えて3年または4年にわたり計画的に教育課程を履修し、修了することを希望する場合には、この長期履修学生制度を活用することができます。なお、納付金の総額は、修業年限が3年または4年の場合でも、修業年限2年の場合とほぼ同額になります。

昼夜開講制

学生各人の学習・研究ニーズに合わせたフレキシブルな履修プランを可能にするため、同じ授業を昼間(1時限～5時限)と夜間(6、7時限)の2回開講して、どちらかを選択できる昼夜開講制を採っております。なお、実習科目は夜間のみ履修することはできません。

授業時間帯は右のとおりです。

昼間の授業

月曜日～金曜日
1時限から5時限
(9:00～17:55)

及び

土曜日
1時限・2時限
(9:00～12:15)

夜間の授業

月曜日～金曜日
6時限・7時限
(18:00～21:10)

及び

土曜日
3時限から7時限
(13:00～21:10)

カリキュラム4つの特色

Point 01 「生徒指導・教育相談」、「学級経営・学校経営」に加えて、「教育課程の編成・実施」及び「教科等の実践的な指導方法」にも対応

修学は全ての教職大学院に必修として置かれる5領域の科目群の他に、本学ではこのうち特に幼小連携、小中連携などの制度改革を含む今日的な課題に対応する「生徒指導・教育相談」、「学級経営・学校経営」に加えて、実践的指導力の育成をねらいに「教育課程の編成・実施」及び「教科等の実践的な指導方法」の領域にも対応いたします。

Point 02 優れた実務経験を有する「実務家教員」と、実践研究に優れた「研究者教員」が連携指導

すべての科目一つひとつについて、実務家教員と研究者教員が連携して指導にあたります。指導の場で、実践と理論が相互交流し、学校現場などにおける課題の発生・解決のプロセスに即した課題解決の場になっています。

Point 03 数多くの「連携協力校」で多様な実習が可能

本学の特長の一つである「理論と実践の融合」を目指し、フィールドワークとしての実習を重視。数多くの連携協力校を設け、院生の問題意識に応える多様な実習を可能にしています。実習にあたっては、事前・事後の指導はもとより、実習先と大学院実習担当教員が密に連携し、実習を円滑に進められるようにサポートします。

Point 04 幼稚園、小学校の「教員専修免許状」が取得可能

幼児教育コースでは幼稚園教諭専修免許状、児童教育コースでは小学校教諭専修免許状が取得できます(専修免許状の取得にあたっては、当該一種免許状を取得している必要があります)。幼稚園教諭・小学校教諭一種免許状を有していない人は「幼稚園・小学校教員免許取得プログラム」等を活用すれば、専修免許状(幼稚園教諭または小学校教諭)の取得が可能*です。

*一種免許状を取得するプログラムには科目等履修の費用が必要です。
また聖徳大学での科目等履修については、女性は通学・通信教育課程、男性は通信教育課程の受講となります。

中学校・高等学校または養護教諭の教員免許状をお持ちの方へ

幼稚園・小学校教員免許取得プログラム

中学校・高等学校または養護教諭の教員免許状を有する人は、長期履修学生制度を活用して、3年間あるいは4年間の教職研究科での履修により、学位取得に併せて、幼稚園教諭又は小学校教諭の一種免許状、さらに専修免許状の取得が可能となります。この場合、本学通信教育部などでの科目等履修生として、幼稚園または小学校の教員免許取得のための単位取得と別途費用が必要です。

この「幼稚園・小学校教員免許取得プログラム」の受講を希望する人は、出願時に「幼稚園・小学校教員免許取得プログラム受講申請書」(本学所定用紙)を提出してください。

基本的な履修モデル

中学校・高等学校または養護教諭の教員免許状所有者	
1年次	主に、幼稚園教諭一種免許状又は小学校教諭一種免許状に係わる所要単位を取得する。一部、教職研究科の科目も履修できる。
2年次	2年次、3年次は、主に教職研究科の幼児教育コース又は児童教育コースの教育課程により履修する。併せて、幼稚園教諭一種免許状又は小学校教諭一種免許状に係わる所要単位の残りを取得する。
3年次	

※幼稚園教諭一種免許状又は小学校教諭一種免許状を本学教職研究科で取得しようとする場合は、出願前に必ず事前相談が必要です。

その他プラス情報

他教科や隣接校種の教員免許状の取得が可能です。

すでに取得している教員免許状を活かし、本学通信教育部などでの科目等履修生となり、必要な単位を修得することで、他教科・隣接校種の教員免許状を申請・取得できます。(詳しくは、本学通信教育部(直通047-365-1200)まで、お問い合わせください。)

他教科の教員免許状の取得
中学の教員免許状を持っている

13単位取得

▶ 他教科の中学校教員二種免許状を申請・取得

隣接校種の教員免許状の取得
小学校の教員免許状を持っている
(※勤務経験3年以上の場合)

14単位取得

▶ 中学校の教員二種免許状を申請・取得

これは一例です。必ず勤務地の都道府県教育委員会に、単位の修得方法、勤務経験年数等を十分ご確認ください。

Point.1

教職大学院唯一の
幼児教育コース

Point.2

「保育の聖徳®」の
80余年にわたる伝統と実績

Point.3

多数の連携協力園・
校で実習が可能

開講時間

昼間履修					夜間・土曜履修	
1	2	3	4	5	6	7
9:00～10:30	10:45～12:15	13:00～14:30	14:45～16:15	16:25～17:55	18:00～19:30	19:40～21:10

幼児教育コース・幼児教育総合実習の年間スケジュール

A：10年経験者研修未修了者で教職経験5年以上 B：10年経験者研修未修了者で教職経験8年以上

※実習は昼間に実施

対象者	春入学者		4月		6月		10月		11月	
	秋入学者	9月	9月	11月	11月	5月	5月	6月	6月	
現職教員	A	1年次	事前指導	【附属小学校・連携協力校】 10日間／2週間						
		2年次	事前指導						【附属幼稚園・連携協力園】 10日間／2週間	事後指導
教職未経験者	B	2年次	事前指導			【附属小学校・連携協力校】 10日間／2週間	事後指導			
		1年次	事前指導	【附属幼稚園・連携協力園】 10日間／2週間					【附属幼稚園・連携協力園】 20日間／4週間	事後指導
		2年次	事前指導			【附属幼稚園・連携協力園】 20日間／4週間	事後指導			【附属幼稚園・連携協力園】 20日間／4週間

◎現職教員については、修学中の勤務状況、課題研究内容、実習園の受入事情等を十分考慮し、決定いたします。

幼児教育総合実習・連携協力園(校)

多様な連携協力園(校)で実習が可能。

【幼児教育コース・連携協力園(校)】

聖徳大学附属小学校、聖徳大学附属幼稚園、文京区立柳町幼稚園、学校法人真理学園神田寺幼稚園、台東区立大正幼稚園、台東初音幼稚園、学校法人いわはま学園北部幼稚園、学校法人松本学園新松戸幼稚園、学校法人杉森学園めぐみ幼稚園、学校法人双葉学園絹ふたば文化幼稚園、学校法人双葉学園取手ふたば文化幼稚園、学校法人志村学園白山幼稚園、文京区立第一幼稚園、台東区立根岸幼稚園、北竜台ふたば文化幼稚園、市川市立南行徳幼稚園、市川市立大洲幼稚園こぶきこども園、武蔵野東第二幼稚園、浦安市立北部幼稚園、新宿区立あいじつ子ども園、狭山ひかり幼稚園、品川区立台場幼稚園、港区立中之町幼稚園、石浜橋場こども園、文京区立明化幼稚園、練馬区立光が丘さくら幼稚園、世田谷区立給田幼稚園、千代田区立番町幼稚園、江東区立みどり幼稚園、柏幼稚園、みらい平ふたばランド、港区立白金台幼稚園、品川区立二葉幼稚園、荒川区立南千住第二幼稚園、川口しらぎ幼稚園、千代田区立ふじみこども園、浦安市立青葉幼稚園、やはた幼稚園、練馬区立光が丘わかば幼稚園、中央区立月島幼稚園、宇宙あそびむら、習志野市立東習志野こども園、所沢文化幼稚園、大田区立立新井第一小学校、新宿区西新宿子ども園



聖徳大学附属幼稚園

大学院での学びで、保育が一層意味深いものに



山本 秀子さん

2016年4月入学
こま幼稚園勤務

高校を卒業し幼児教育者になるために進学した時は、授業が「そうなんだ…」と受身のものでした。その後、教育現場を経験してから教職大学院で授業を受けると頭の中に子どもたちの様子が浮かび「そうなんだ」「そう、そう」に変わって学んだことが全て即実践に結びつく勉強ができています。仕事と学生の両立をするには、学びたいを学べるに繋げるのが難しいことがあります。しかし聖徳大学教職大学院は仕事をしている人にもとても心温かい教職大学院です。現場のことを教職大学院で振り返り、深め、保育へと繋げる。そして教師は常に学ぶことを忘れない！この重要性を毎日実感しています。

園の経営なども視野に入れた幅広い学びが魅力



皆川 真貴子さん

2016年4月入学
和洋女子大学
人文学群心理・社会学類
人間発達学専修
こども発達支援コース 卒業

実家が私立幼稚園を経営しており、大学で学んだ幼児教育だけでなく、園経営などについてもより学びを深めたいと思い、入学を決意いたしました。実際の授業では、現職の先生方と共に学べることや、小学校の先生方との授業もあり、具体的な事例からたくさんのことが学べています。総合実習の中では、講義で学んだことを現場で実践してみることができます。また、小学校での観察実習やこども園での実習では、幅広い学びができると期待しています。

大学院で学んだことを実践に生かし、多くの経験を積み重ねて、子どもたちのために、よりよい実践ができる保育者を目指します。

Point.1

教員養成、児童研究における伝統と実績

Point.2

教育現場を熟知した経験豊富な教員陣

Point.3

理論と実践から課題を研究し成果を現場に還元

開講時間

昼間履修					夜間・土曜履修	
1	2	3	4	5	6	7
9:00～10:30	10:45～12:15	13:00～14:30	14:45～16:15	16:25～17:55	18:00～19:30	19:40～21:10

児童教育コース・学校教育総合実習の年間スケジュール

A：10年経験者研修未修了者で教職経験5年以上 B：10年経験者研修未修了者で教職経験8年以上

※実習は昼間に実施

対象者	春入学者 秋入学者	4月	6月	10月	11月
		9月	11月	5月	6月
現職教員	A	1年次 事前指導	【附属小学校等】 10日間／2週間		
	2年次 事前指導				【連携協力校】 事後指導 10日間／2週間
教職未経験者	B	2年次 事前指導		【連携協力校】 事後指導 10日間／2週間	
	1年次 事前指導	【附属小学校等】 10日間／2週間			【附属小学校】 事後指導 20日間／4週間
	2年次 事前指導		【連携協力校】 事後指導 20日間／4週間		

◎現職教員については、修学中の勤務状況、課題研究内容、実習校の受入事情等を十分考慮し、決定いたします。

学校教育総合実習・連携協力校

地域・近県の公立小学校を中心とした多数の実習先を確保。

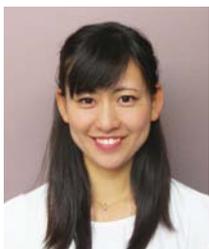
【児童教育コース・連携協力校】

- <千葉県> 【松戸市】聖徳大学附属小学校／市立北部小学校、松戸市立相模台小学校、松戸市立高木小学校、松戸市立馬橋小学校、松戸市立小金小学校、松戸市立常盤平第二小学校、松戸市立小金北小学校、松戸市立柿の木台小学校、松戸市立古ヶ崎小学校、松戸市立殿平賀小学校、松戸市立八ヶ崎第二小学校、松戸市立新松戸南小学校、松戸市立中部小学校、松戸市立松ヶ丘小学校／【市川市】市川市立鬼高小学校、市川市立稲越小学校、市川市立市川小学校／【野田市】野田市立関宿小学校／【柏市】柏市立高田小学校
- <東京都> 【荒川区】荒川区立第三日暮里小学校、荒川区立尾久小学校／【足立区】足立区立大谷田小学校、足立区立千寿本町小学校、足立区立上沼田小学校、足立区立中川小学校 【葛飾区】葛飾区立金町小学校、葛飾区立道上小学校、葛飾区立柴原小学校／【文京区】文京区立昭和小学校、文京区立誠之小学校、文京区立本郷小学校／【港区】港区立本村小学校、港区立三光小学校／【千代田区】千代田区立昌平小学校／【目黒区】目黒区立駒場小学校
- <茨城県> 【取手市】取手市立取手小学校、取手市立寺原小学校、取手市立桜が丘小学校／【牛久市】牛久市立向台小学校、牛久市立牛久第二小学校



聖徳大学附属小学校

高度な専門知識と実践力を身につけたい



吉田 真子さん

2015年4月入学
聖徳大学
児童学部 児童学科
小学校教員養成コース卒業

教職大学院に進学したのは、学部での学びを講義や教育実習を通して、更に実践的な指導力を身につけることができると考えたからです。講義は、少人数で行うため積極的に発言や質問をすることができます。また、現職の先生から教育現場の生の声を聞くことも教職大学院の大きな特徴だと思います。

教育実習では、興味をもった科目や学級経営の実践例などを教授と共に研究・分析を行い、現場で実践することができます。私は、ここでの学びを活かし笑顔と優しさが溢れる学級作りと楽しい授業作りのできる教師を目指します。

組織管理や経営の視点からも学べる



高橋 静さん

2016年4月入学
千葉県公立小学校勤務

教育現場が日々変化していく中で中堅教員となった今、これまでの経験だけに頼って教員を続けていくことに危機感を感じ、現状に即した高度な専門的知識を学びたいと思い、入学を決意しました。今までは、学級指導や教科指導を中心に置いて考えてきましたが、聖徳大学教職大学院では、それらの力量を高められるだけではなく、組織管理や経営の視点からも専門的に学ぶことができます。学んだこと、今までの実践とを関連させながら授業を受けることで学ぶことの楽しさ、大切さを実感しています。また、研究者の先生方と、現場経験豊富な先生方の講義はとても学び深いものがあります。教職大学院で学んだことを、自分自身の教員としての質の向上につなげ、子どもたちの成長のために、学校教育へと還元していきたいです。

教員採用試験への推薦(大学推薦制度)のお知らせ

教員採用試験大学推薦制度があります。この推薦制度を受けると、1次試験免除などの優遇措置が受けられます。

平成28年度実施の教員採用試験に関してまとめたものが下の表ですが、教職大学院は学部や既存の修士課程に比べて、大学推薦が受けやすくなっています。

教職大学院のみに大学推薦制度を設けたり、推薦枠の拡充を図ったりするなど、教職大学院の修了予定者を優遇する教育委員会もあります。また、神奈川県のように学部・修士課程と教職大学院の両方に推薦枠を設けている教育委員会もあります。

しかし、学部・修士課程と教職大学院を比較すれば、在籍者数が少ない教職大学院の方が推薦に選ばれる確率が高くなります。しかも、本学の場合、教職大学院の修了予定者の半数以上は現職院生ですので、これから教員採用試験を受けようとする学卒院生の修了予定者が推薦される可能性は非常に高くなります。

平成28年度実施教員採用試験における各教育委員会からの推薦枠一覧(5/11現在)

対象	実施機関	推薦人数	募集校種	内容
教職大学院のみ	東京都教育委員会	1名	小学校	一次試験免除
	神奈川県教育委員会	制限なし	小学校	一次試験免除
	横浜市教育委員会	1名	小学校	一次試験免除
	京都市教育委員会	2名	小学校	一次試験免除
教職大学院を含む全学	埼玉県教育委員会	5名	小学校	一次試験免除
	相模原市教育委員会	1名	小学校	一次試験免除
	京都府教育委員会	2名	小学校	一次試験免除
	大阪府教育委員会	2名	小学校	一次試験免除
	大阪府豊能地区	1名	小学校	一次試験免除

■下記の教育委員会については、推薦ではなく、一次試験受験の際に免除されるものである。

対象	実施機関	推薦人数	募集校種	内容
教職大学院を含む全学	千葉県・千葉市教育委員会	2名	小学校	一次試験で教職教養免除
	大阪府堺市教育委員会	1名	小学校	一次試験で教職教養および実技免除

*推薦枠や人数は年度によって変更になる場合があります。

充実した学習環境

豊富な蔵書と最良の学習空間を提供する「図書館」

1号館内にある「川並弘昭記念図書館」は、約100万冊を収容可能。パソコン操作で貸出しできる自動化書庫を備え、約1,000席の閲覧席を設置しています。国立情報学研究所が提供する図書館相互貸借システムと連携しており、他大学等の蔵書を複写・貸借することも可能です。

閲覧ラウンジは吹き抜けからの自然採光を生かした明るい空間。落ち着いた開架閲覧室もあり、読書や自主学習にも最適です。



図書館とメディアパークが連携した1号館。「知」の拠点として学習をバックアップします。

幼児・児童向け図書を揃えた「こども図書館」

図書館内にある「こども図書館」には、幼児・児童向けの図書を約1万冊所蔵しています。読み聞かせができる「おはなしのへや」や、子ども向けの学習用仕掛けを実際に体験できる「たいけんのへや」もあります。

パソコンを自由に使える「メディアパーク」

学生が自由に使えるパソコンが50台あり、持ち込んだパソコンにも対応する無線LANを配備しています。また、図書館との情報の一体化を図り、情報を検索したり、それを論文やレポート作成に利用できるようにするなど利便性にも配慮。IT・情報の中心として活用されています。



幼児・児童向け図書を約1万冊所蔵する「こども図書館」。

専任教員と主な担当科目

教職研究科長



聖徳大学教職大学院は、全国で唯一の「幼児教育コース」と「児童教育コース」を設け、「保育の聖徳®」として積み重ねてきた幼児期から児童期の子どもの研究と教育に関する伝統と実績に基づき、幼稚園と小学校の教員の養成と研修に絞った、より実践的で専門的な教職研究のカリキュラムを編成し、全ての科目に実務家教員と研究者教員が関わることで、理論と実践を融合させた研究支援体制を整えています。そして、教職に対する強い使命感と子どもたちに対する愛情及び常に学び続ける向上心を持ち、同僚と協働して課題の改善に取り組むとともに、教科や教職に関する専門的知識と新たな学びを展開できる高度な実践的指導力を有する専門的職業能力を備えた教員 (professional teacher) の育成を目指しています。

教授
南部 昌敏

専門分野・研究分野

教育学、教育方法学、メディア教育、情報教育

主な担当科目

現代教育の課題研究／教育評価の理論と方法
授業研究の理論と実践／授業設計の理論と実践
ICT活用実践の基礎／ICT活用実践の応用

経歴

1973年東京学芸大学大学院教育学研究科修士課程修了 教育学修士、東京都立小学校、東京学芸大学附属大泉小学校、東京学芸大学助手、上越教育学講師・助教授・准教授・教授、同大学院教授を経て、2014年4月より本学に着任。日本教育工学会理事、日本教育工学会協会評議員。

主な著書・論文・発表等

映像番組理解のための分析的視聴方法の開発—NHK学校放送番組「くらしの歴史・五人組」を用いた教員養成における試み— 共著 平成16年12月 教育メディア研究第11巻第1号／児童の評価活動を基盤とした情報活用の実践力育成プログラムの開発と評価 共著 平成18年11月 日本教育工学会論文誌第30巻第3号／多人数を対象とした教育メディア関連授業改善の試み—授業者と受講生の意思疎通を図るためのコミュニケーションカードの活用— 共著 平成20年3月 教育メディア研究第14巻第2号／協働と省察を取り入れたワークショップ型校内教員研修システムの開発—東京都荒川区立尾久第六小学校における校内教員研修の実践を通して— 共著 平成23年2月 上越教育学研究紀要第30巻／教員属性、研修参加状況と教師の自己効力感及び教職に関する認知との関連—沖縄県島尻地区の小・中学校教員を対象として— 共著 平成24年3月 京都教育大学紀要第120巻／中学校への追跡調査による小学校におけるメディア・リテラシー育成要素の提案 共著 平成24年12月 日本教育工学会論文誌第36巻 (Suppl.)／教員養成大学における小学校教師としての授業設計能力を育成するための授業プログラムの開発と試行 (1) 単著 平成27年3月 聖徳大学大学院教職研究科教職実践研究第5号／日中研究協力・交流の経緯と今後の展望 共著 平成27年11月 日本教育工学会論文誌39巻2号

幼児教育コース主任



教授
塩 美佐枝

専門分野・研究分野

教育学

主な担当科目

園経営事例研究／保育研究の理論と実践
組織管理マネジメント演習／教育経営基礎演習

経歴

東洋大学大学院文学研究科修士(教育学)
東京都立幼稚園、東京都教育委員会等を経て、1998年4月より本学に着任。全国幼児教育研究協会前理事長、文部科学省中央教育審議会専門委員(初等中等教育分科会)などを歴任。

幼児期の教育は人間形成の重要な基礎になります。「幼児教育コース」では、優れた実践や園経営を行える教育者の育成を目的としています。教員は幼児教育の研究者のほか、幼稚園の園長経験者や、カウンセリング等の臨床経験を持つ教員など実績ある専門家ばかりです。教員と院長が協働で実践に結びつく課題に取り組んでいるのも特徴です。幼稚園やこども園の教育を構想し、新しい幼児教育の在り方についても研究します。成果は学会などに発表し、研究同人として活動するなど新たな教育研究の場となることを目指しています。

主な著書・論文・発表等

「青年期の認知地域をイメージから探る」 東洋大学大学院修士論文／保育講座「教育課程、保育計画論」 編著 平成11年3月 チャイルド本社／幼稚園教育をどう創るか 共著 平成11年6月 明治図書／新幼稚園教育要領の解説 共著 平成11年9月 ぎょうせい／保育内容総論編著 平成11年10月 光生館／新幼稚園指導要録の記入のポイントと実際例 編著 平成12年7月 学習研究社／保育環境プランニングブック(再掲) 共著 平成13年7月 チャイルド本社／表現する喜びと人とのかわり 単著 平成14年12月 幼稚園じほう(全国公立幼稚園長会)／幼稚園教育の充実と教師の専門性 単著 平成16年 8月 幼稚園じほう(全国公立幼稚園長会) 平成22年4月 チャイルド本社／幼児の遊びと学び 編著 平成27年3月 聖徳大学出版会／幼児理解 一人ひとりに応じた指導 他

児童教育コース主任



教授
櫻井 茂

専門分野・研究分野

生活科教育法・理科教育法

主な担当科目

自然・生活系教科の指導法研究
自然・生活系教科の教材開発／学年・学級経営実践研究

経歴

東京学芸大学初等教育教員養成課程学校教育科卒業。東京都立小学校教諭、東京都区市教育委員会指導主事、東京都教育庁指導主事、同統括指導主事、清瀬市教育委員会指導室長、東京都立小学校校長を経て、2011年4月より本学に着任。校長在任中に全国小学校理科教育研究協議会副会長、東京都立小学校教員副会長などを歴任。

知識基盤化社会にあつては、絶えず新しい知識・技術・情報が求められています。またグローバル化社会にあつては国際競争がますます激しくなり国際協調の精神が大切になっていきます。これは、21世紀に生きる子どもたちに身につけさせていく力であると同時に、それを指導する教師や学校にも求められています。今後の教育課程が審議され学習指導要領が改訂されていきます。「児童教育コース」では、こうした社会の変化に基づき教育の在り方を学修して各学校や教育委員会のリーダーを養成していくことを目指しています。特に本学では「幼児教育コース」が設置されていることから、選択科目などで共に学ぶことにより幼小の連携等一層視野を広げることが可能です。学校現場の課題に目を向けながら解決の方途を追究していきましょう。

主な著書・論文・発表等

「習得・活用・探究する児童の育成—自ら課題を見付け解決する力を伸ばす指導の工夫—」 共著 平成23年12月 中野区立上鷺宮小学校研究紀要／これからの学校教育の改善に資する提言—その理念と展望—記念誌第2集 共著 平成25年3月 財団法人日本教育研究連合会／聖徳の教養育む技法第9号 共著 平成27年2月 聖徳大学・聖徳大学短期大学部／教職実践センター年報 共著 平成28年3月 聖徳大学教職実践センター／教頭の仕事<基本手帳>共著 平成25年2月 教育開発研究所／心を揺さぶる校長講話 共著 平成26年2月 教育開発研究所／ことわざで語る校長講話85 共著 平成27年3月 教育開発研究所／教務主任実務ハンドブック 共著 平成28年4月 教育開発研究所／偉人・著名人の言葉で語る校長講話 共著 平成28年4月 教育開発研究所 他



教授
相磯 克典

専門分野・研究分野
国語科教育法、学校経営

主な担当科目

カリキュラムマネジメント演習/学校経営・組織事例研究
小幼・小中連携演習/教育経営基礎演習
人文・社会系教科の教材開発
人文・社会系教科の指導法研究

経歴

千葉県松戸市教育委員会企画管理室長補佐、千葉県松戸市教育委員会学務課長補佐、千葉県松戸市立和名ヶ谷小学校長、千葉県松戸市教育委員会指導課長、千葉県松戸市立相模台小学校長として勤務。千葉県教育研究会松戸支部国語部会長、松戸市校長会長などを歴任。

主な著書・論文・発表等

新しい学力観に基づく国語科の学習指導 共著 平成7年 松戸市教育研究所/主体的な学び手が育つ中学校社会科の指導 共著 平成8年 松戸市教育研究所/スクールカウンセラー活用調査研究(文部省委託研究)共著 平成9年 松戸市教育研究所/適応指導教室のあり方に関する研究(文部省委託調査)共著 平成9年 松戸市教育研究所/松戸市社会科副読本(小学校・中学校 共著 平成6年~9年)松戸市教育委員会/松戸市危機管理マニュアル(試案)作成 共著 平成17年 松戸市教育委員会/文部科学省研究指定 教育課程特例校 松戸市の言語活用例に関する研究 平成24・25年 松戸市教育委員会



教授
太田 繁

専門分野・研究分野
体育・スポーツ科学

主な担当科目

教育方法高度化演習/学習指導実践改革・改善の方策
学校教育総合実習
健康教育・体育系教科の指導法研究
健康教育・体育系教科の教材開発

経歴

1983年東京学芸大学大学院教育学研究科修士課程修了 教育学修士
都立高校勤務、専門学校、大学等の非常勤講師を経て、1990年4月より本学に着任。
日本体育学会等の会員。

主な著書・論文・発表等

話題源・体育 分担執筆(東京法令出版、平成元年)/どこでもできる子どもの運動遊び 共著(同朋舎出版、平成2年)/「体操遊戯取調報告・(明治38年)」に見られる国立体育研究所設立構想(平成3年) 聖徳大学研究紀要短期大学部第24号(I)/陸軍関係雑誌に見る体力科学関連記事について-明治40~大正初期-(平成4年)東京学芸大学紀要第5部門芸術・体育第45集/アメリカにおけるフィットネス教育の学習内容に関する検討-Fitsmartを対象として-(平成13年)聖徳大学研究紀要人文学部第12号/柏市における幼稚園児の運動能力と評価基準の作成(平成23年)聖徳大学研究紀要第21号/幼稚園児の園における生活と運動能力の関係(平成24年)聖徳大学研究紀要第22号



教授
金子 英孝

専門分野・研究分野
教育行政学、学校経営

主な担当科目

教育行政特論/教育経営基礎演習
学校経営・組織事例研究
教職・教員倫理演習
組織管理マネジメント演習

経歴

千葉県印西市立木刈小学校長、千葉県教育庁教育振興部副参事、同 教職員課長、同 教育総務課長、同 教育振興部長を経て、2015年より本学に着任。千葉県教育振興財団副理事長、千葉県文化振興財団理事、千葉大学教員養成開発センター運営協議会委員などを歴任。

主な著書・論文・発表等

先生のための「歴博」見学の手引き 共著 平成5年3月 国立歴史民俗博物館/自治体史を身近なものとするために 平成5年3月 成田市教育委員会/人間を考える新しい社会の授業 共著 平成6年4月 東洋館出版社/次世代の育成に向けて 平成19年12月 千葉県公立学校教頭会/公立学校管理運営研修会報告書 共著 平成25年3月 千葉県教育委員会/千葉県小中学校長研修会 講師(平成23年及び24年)



教授
篠原 孝子

専門分野・研究分野
幼児教育学

主な担当科目

教育課程基礎演習/幼稚園教育課程事例研究
生活指導基礎演習
自然・生活系教科の指導法研究
自然・生活系教科の教材開発

経歴

東京都大田区立羽田幼稚園長、千鳥幼稚園長、文部科学省初等中等教育局幼児教育課教科調査官・国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官を経て、2010年より本学に着任。全国国公立幼稚園長会時報部長・全国幼児教育研究協会調査研究部長を歴任。

主な著書・論文・発表等

新保育シリーズ「保育内容人間関係」共著 平成20年12月 光生館/新指針・新要領イラスト図解ガイド 共著 平成21年2月 ひかりのくに/新保育ライブラリ「保育内容環境」共著 平成21年3月 北大路書房/こうすればうまくいく!幼稚園・保育所と小学校の連携ポイント 編者 平成21年12月 ぎょうせい/幼児の遊びと学び 共著 平成22年4月 チャイルド社/幼稚園教育要領の改訂 単著 平成20年5月「初等教育資料」/幼児期を幼児らしく豊かに生きる 単著 平成21年4月「幼稚園じほう」(全国国公立幼稚園長会)/幼稚園における魅力ある教育課程の編成と指導の実例 単著 平成21年5月「初等教育資料」/指導計画の作成ポイントと作成の実例 共著 平成21年8月「初等教育資料」/学校教育としての意味 単著 平成25年3月「幼稚園じほう」(全国国公立幼稚園長会) 他



教授
楠 瑞希子

専門分野・研究分野
幼児教育史、イギリスの教育、比較幼児教育

主な担当科目

現代教育の課題研究/教育方法事例研究
幼児教育総合実習/家庭教育・子育て支援演習

経歴

1978年東京教育大学大学院教育学研究科修士課程修了 教育学修士
専門学校、大学等の非常勤講師を経て、1994年4月より本学に着任。幼児教育史学会、日本保育学会等の会員。

主な著書・論文・発表等

「改訂保育原理」共著 平成21年 光生館/「教育原理」共著 平成21年 北大路書房/「教育史」共著 平成21年 学文社/「保育原理」共著 平成23年 全国社会福祉協議会/「白梅子ども学講座4世界の子ども政策から学ぶ」平成23年 白梅学園大学子ども学研究所/「イギリスの「家庭的保育」(チャイルドマインディング)調査(4)-保育職資格の再構築を通してみた旧労働党政権の保育拡充策-」 単著 平成23年「研究紀要」第21号 聖徳大学/「オーランド統合学区(OUSD)の保育行政-就学準備教育施策を中心に-」 共著 平成23年「教職実践研究」第2号 聖徳大学大学院教職研究科/「両大戦間期イギリスにおける保育学校運動再校①」 平成26年「研究紀要」第24号 聖徳大学



教授
廣嶋 憲一郎

専門分野・研究分野
学校経営、社会科教育法

主な担当科目

教育課程基礎演習
人文・社会系教科の指導法研究
人文・社会系教科の教材開発/学校教育総合実習
カリキュラムマネジメント演習/学校カリキュラムデザイン

経歴

東京都立教育研究所統括指導主事、東京都多摩教育事務所主任指導主事・指導課長、東京都青梅市立河辺小学校長を経て、2004年より本学に着任。小学校学習指導要領作成協力者(平成元年・平成10年)、学習指導要領実施状況調査問題作成委員・分析委員、文部科学省学びのイノベーション推進委員会委員等を歴任。

主な著書・論文・発表等

生活科の再出発 単著 平成9年 東洋館出版社/自ら学ぶ総合的な学習の時間の創り方 共著 平成11年 東洋館出版社/総合的な学習の時間の実践事例と解説 共著 平成11~25年 第一法規/学校教育の評価改善事例集 共著 平成14~22年 第一法規/図解社会科授業 共著 平成17年 東洋館出版社/「教育評価」と上手に付き合う本 単著 平成19年 明治図書/学級づくりの相談室 共著 平成19年 光文書院/小学校学習指導要領ポイントと授業づくり社会 編者 平成20年 東洋館出版社/小学校学習指導要領の授業社会科実践事例集 編者 平成21年 小学館/これからの学習評価と指導要録 共著 平成22年 第一法規/小学校社会編事例に学ぶ教師の評価術 編者 平成23年 東洋館出版社/小中連携教育を何から始め、どう進めればよいか 平成25年 月刊教職研修/地域の素材を教材化する教育活動の具体策 平成26年 初等教育資料2月号



教授
松原 みき子

専門分野・研究分野
養護活動、養護概説、健康教育、
学校保健、健康相談活動、保健科教育学

主な担当科目
健康教育・体育系教科の指導法研究
健康教育・体育系教科の教材開発
教職実践課題解決研究

経歴

2016年千葉大学大学院教育学研究科修士課程修了
千葉県鎌ヶ谷市、船橋市の公立小・中学校養護教諭、鎌ヶ谷市養護教諭会会長、
船橋市養護教諭会会長、第22回日本養護教諭教育学会実行委員、日本健康相談活
動学会、日本学校健康相談学会会員。

主な著書・論文・発表等

複数配置養護教諭の協力した対応に内在する思考 単著 平成28年3月 修士論文 千葉大学 / 健康相談活動
の充実を求めて(—ヘルスチェックカードの有効性の検討—) 共著 平成23年12月 第15回千葉県 学校保健学会
 / 養護教諭の言語的対応スタイル—友人関係を原因として来室する子どもへの相談的活動— 共著 平成21年2月
日本健康相談活動学会誌 / 千葉テレビ「中学生時代—どうしたの気分が悪いの」出演 平成3年6月 / 生活リズムの
改善を目指して—脳力アップとタイアップ 単著 平成6年9月 日本学校保健研修社 / 生活力を身につける ビジュー
ル保健「脈を感じてみよう」 単著 平成20年4月 健学社 / 生活力を身につける ビジュール保健「愛し愛し不思議な
からだのからくり」 単著 平成21年2月 健学社 / 学校保健委員会について 単著 昭和57年11月 千葉県教育
研究大会 / 視聴覚教材を活用した保健教育についての一考察 単著 平成3年11月 船橋市教研大会 / 生きるこ
うのこと... We are pulling all together. 単著 平成12年8月 全国養護教諭連絡サークル協議会 他



教授
百瀬 定雄

専門分野・研究分野
スポーツ運動学、体育科教育学

主な担当科目
教育方法事例研究 / 授業の高度化演習
健康教育・体育系教科の指導法研究
健康教育・体育系教科の教材開発
教職実践課題解決研究

経歴

1993年上越教育大学大学院学校教育研究科教科・領域教育専攻修士課程修了 修士
(教育学)
長野県公立小学校・中学校勤務を経て、2002年4月より本学に着任。(公財)日本体育学
会等の会員 (公財)日本オリンピック委員会 強化スタッフ 日本体育協会 上級コーチ。

主な著書・論文・発表等

長なわび運動の基礎技術と発展技—スモールステップ運動指導法に関連して— 単著 平成27年2月 聖徳の教養
 技法9号 / 2015年度版 スイスわかる幼稚園教員採用実技試験 共著 平成26年4月 一ツ橋書院 / 21世紀スポーツ
 大事典 共著 平成27年1月 大修館書店 / オリンピック冬季大会(2014 / ソチ) 報告書 共著 平成26年6月 日本オ
 リンピック委員会 / 「自然・生活系教科の指導法研究」における学外講義について 共著 平成27年3月 教職実践研究5
 号 / 科学研究費補助金基盤研究(C)研究成果報告書「幼児施設における遊具の事故防止のための幼児の行動特性及び遊
 具の安全性について」 共著 平成26年3月 東京都府民振興局「清走スポーツにおけるパフォーマンス向上に関する空気の
 科学的検討の意義と課題—リージュショナルチームの風洞実験を通して— 単著 平成23年3月 聖徳大学研究紀要 / 幼
 児の学びと遊び 共著 平成21年6月 チャイルド社 / スポーツ運動における循環運動の中間局面形成に関する研究—短
 なわび運動の習熟過程を手がかりとして— 共著 平成15年9月 日本体育学会54回大会(熊本大学) 他



教授
藪中 征代

専門分野・研究分野
教育心理学、保育心理学、読書心理学(絵本)

主な担当科目
教育方法高度化演習 / 家庭教育・子育て支援演習
人文・社会系教科の教材開発
人文・社会系教科の指導法研究
幼児教育総合実習

経歴

2003年聖徳大学大学院児童学研究科博士後期課程修了 博士(児童学)
専門学校等の非常勤講師を経て、2003年より本学に着任。日本保育学会、日本発達
心理学会等の会員。

主な著書・論文・発表等

児童を対象とする外国語教育の国際比較 共著 平成19年5月 朝日出版 / 朗読聴取に関する教育心理学的
 研究 単著 平成20年2月 風間書房 / 保育内容・言葉—乳幼児のこぼれを育む— 共著 平成20年
 10月 教育出版 / 事例から学ぶ子ども主体の保育 共著 平成21年11月 チャイルド本社 / 教科心理学ハ
 ンドブック 共著 平成22年3月 図書文化 / 保育の心理学—子どもの心身の発達と保育実践— 共著 平
 成24年4月 教育出版 / 集団への絵本の読み聞かせに対する保育者の意識の認識 共著 平成23年4月
 教材学研究第22巻 / 実習に関する学生の意識調査—実習経験が自己効力感に及ぼす影響— 共著 平成
 23年3月 聖徳大学(FD) 紀要第5号 / 昔話絵本の絵が幼児の理解および作話に及ぼす影響 単著 平成
 25年3月 聖徳大学研究紀要第23号 / 絵本をめぐる親子の言語的相互作用 共著 平成26年3月 聖徳
 大学研究紀要第24号 / 教材事典 共著 平成25年9月 東京堂出版



教授
吉本 恒幸

専門分野・研究分野
道徳教育

主な担当科目
教職・教員倫理演習
幼保小連携教育実践演習
学年・学級経営実践研究

経歴

1973年立教大学大学院文学研究科教育学専攻修士課程修了。東京都教育庁指導部
指導主事、東久留米市教育委員会指導室長、東京都教育庁指導部主任指導主事、
東京都教育庁指導部副主事、東京都公立小学校校長を経て、2010年4月より本学に着任。
全国小学校道徳教育研究会会長、中央教育審議会道徳教育専門部会委員などを歴任。
日本道徳教育学会会員。

主な著書・論文・発表等

授業力を高める校内研修のアイデア 共著 平成18年7月 文溪堂 / 命を大切に育てる教育の徹底 共
 著 平成19年2月 教育開発研究所 / 規範意識の低下を防ぐために 共著 平成19年4月 文溪堂 /
 「保護者宛文書」トラブル回避術 共著 平成19年7月 教育開発研究所 / 道徳、この1年でチャレン
 ジ 共著 平成20年4月 文溪堂 / 新学習指導要領と道徳教育の改善ポイント 共著 平成21年3月
 教育開発研究所 / 「道徳」趣旨の徹底から具体的な実践へ 共著 平成21年10月 文溪堂 / 道徳グ
 ム大図鑑 共著 平成21年9月・11月・12月 文溪堂 / 学年での動物飼育体験が子どもの動物への共
 感性及び社会的行動の発達に与える影響の検討 共著 平成17年2月 全国学校飼育動物研究会
 会誌 第6巻1号 / 「幸せコアラ」小学校道徳読み物資料集 共著 平成23年3月 文部科学省 他



准教授
山崎 奈々絵

専門分野・研究分野
教師論、戦後日本教育史

主な担当科目
現代教育の課題研究
授業研究の理論と実践
教職実践課題解決研究

経歴

2010年お茶の水女子大学大学院博士後期課程単位取得満期退学 博士(社会科学)
東海大学助教を経て、2014年4月より本学に着任。日本教師教育学会等の会員。

主な著書・論文・発表等

「新・教職入門」 共著 平成26年3月 学文社 / 「創設期の青山学院女子短期大学児童教育科の理
 念とカリキュラム—保育者養成の観点から—」 平成27年12月 青山学院女子短期大学総合文化研究
 所「総合文化研究所年報」第23号 / 「戦後義務教育教員養成の再検討—発足当初の静岡大学・岡山
 大学の事例から—」 平成26年3月 / 「東海大学課程資格教育センター論集」第12号 / 「創設期の学芸
 大学における教員組織の形成過程—設置申請時の教員審査を中心に—」 平成21年10月 / 「日本教師
 教育学会年報」第18号 / 「戦後学芸大学における一般教養と教員養成—履修基準の検討を中心に—」
 お茶の水女子大学グローバルCOEプログラム「格差センシティブな人間発達科学の創成」 平成20年
 8月 / PROCEEDINGS 03 Grant-In-Aid Research Awards AUGUST 2008 (公募研究成果論文集) 他



講師
岡田 了祐

専門分野・研究分野
社会科教育学、評価論

主な担当科目
人文・社会系教科の教材開発
人文・社会系教科の指導法研究
教職実践課題解決研究

経歴

2015年広島大学大学院教育学研究科博士課程後期修了 博士(教育学)
広島大学大学院教育学研究科特任助教、専門学校、大学等の非常勤講師を経て、
2016年4月より本学に着任。全国社会科教育学会等の会員。

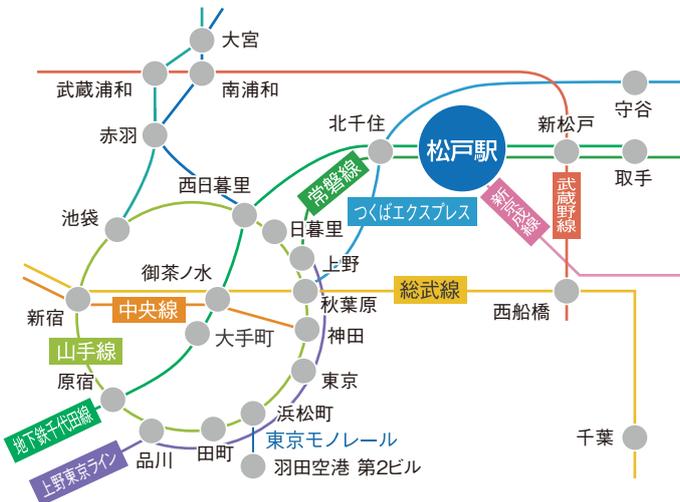
主な著書・論文・発表等

教員志望学生にみる社会科授業分析力の向上とその効果—社会系(地理歴史)教科指導法の受講生を手がかりに— 共著
 平成25年12月 広島大学大学院教育学研究科紀要第二部第62号 / 社会科学習評価への質的研究法Grounded Theory
 Approachの導入—社会科認識形成過程における評価のための視点提示に関する方法と実際— 単著 平成26年3月 社会科
 教育研究第121号 / 意思決定型社会科における子どもの飛躍をつまづき—構築型評価モデルによる子どもの社会科認識形成過程の分
 析— 単著 平成26年11月 社会科研究第81号 / 事象的社会科認識形成型社会科における動機づけによる知識の獲得と再現
 —構築型 / 評価モデルによる子どもの社会科認識形成過程の比較考察— 単著 平成27年3月 教育学研究ジャーナル第16号 /
 社会科教師はどのようなカリキュラムデザインが可能か(2)—公民学習材の開発と活用の事例研究— 共著 平成27年3月 学校
 教育実践学研究第21号 / 人権教育のグローバル化の意義と可能性—富士小学校実践「外国人」の分析を通して— 共著 平成
 27年6月 グローバル教育研究第7巻2号(韓国) / 概念の構築における子どもの社会科認識形成過程の差異—構築型評価モデルに
 よる比較考察を通して— 単著 平成27年12月 日本教科教育学会誌第38巻第3号 / 特別支援学校用教科書「くらしに役立つ
 社会」の分析(四)「公民的内心—学習困難の研究(4) 共著 平成28年3月 特別支援教育実践センター研究紀要第14号 他

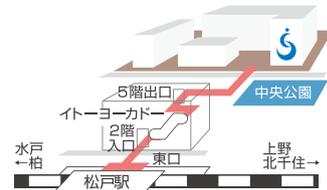
都心から楽々アクセス、松戸駅・徒歩5分の快適通学

キャンパスは千葉県松戸市にあり、緑と芸術に囲まれた広大な敷地が自慢です。
都心の主要駅からのアクセスも、30～40分程度と良好です。松戸駅からは徒歩5分で、近くて便利です。

★最寄り駅(松戸)までのアクセス



★松戸駅からのアクセス



JR常磐線・JR乗り入れ地下鉄千代田線・新京成線
「松戸」駅下車東口徒歩5分

※イトーヨーカドー内エスカレーターを利用できます。
閉店時は正面の通用階段をご利用ください。
※公共交通機関をご利用いただき、お車での来校はご遠慮ください。

松戸駅までの主な所要時間

上野	20分	千葉	55分
東京	26分	京成津田沼	44分
池袋	35分	大宮	52分
新宿	43分	水戸	102分
渋谷	50分	羽田空港	60分
横浜	66分		

*東京モノレール「羽田空港第2ビル」より
※時間は目安であり、日付・時刻によって異なりますので、ご注意ください。

聖徳大学大学院 教職大学院

SEITOKU

教職研究科 教職実践専攻 [幼児教育コース・児童教育コース]

資料の請求・お問い合わせは 聖徳大学入学センターまで

受験相談フリーダイヤル

0120-66-5531

TEL. 047-366-5551 (直通) FAX. 047-366-5553 (直通)

[ホームページ] <http://www.seitoku.jp/univ/>

〒271-8555 千葉県松戸市岩瀬 550 TEL. 047-365-1111 (大代表)

聖徳学園では全学園でISO9001・ISO14001を同時取得
[2003年11月18日] (教育機関として日本初)



聖徳大学教職大学院は「一般財団法人 教員養成機構」が実施する教職大学院等認証評価で、「教職大学院評価基準に適合している」と認定されました。

ISO9001 (教育の質マネジメントシステム)
ISO14001 (環境マネジメントシステム)